

表 2. 単胎児と双胎児の体格発育状況 —平均の差および比—

|        |      |             | 男          |           |      |           |           | 女          |           |      |           |           |
|--------|------|-------------|------------|-----------|------|-----------|-----------|------------|-----------|------|-----------|-----------|
|        |      |             | 生下時        | 3カ月       | 1 歳  | 3 歳       | 8 歳       | 生下時        | 3カ月       | 1 歳  | 3 歳       | 8 歳       |
| 体<br>重 | 変動係数 | 単胎          | 0.13       | 0.11      | 0.10 | 0.11      | 0.16      | 0.13       | 0.10      | 0.10 | 0.11      | 0.16      |
|        |      | 双胎          | 0.18       | 0.11      | 0.09 | 0.10      | 0.12      | 0.19       | 0.09      | 0.10 | 0.12      | 0.14      |
|        | 平均の差 | (単胎<br>-双胎) | **<br>0.71 | **<br>0.5 | 0.1  | **<br>0.8 | **<br>1.8 | **<br>0.73 | **<br>0.6 | 0.3  | **<br>0.6 | **<br>1.2 |
|        |      | (双胎/<br>単胎) | 0.78       | 0.92      | 0.99 | 0.94      | 0.93      | 0.77       | 0.90      | 0.97 | 0.96      | 0.95      |
| 身<br>長 | 変動係数 | 単胎          | 0.05       | 0.03      | 0.03 | 0.04      | 0.04      | 0.04       | 0.04      | 0.03 | 0.04      | 0.04      |
|        |      | 双胎          | 0.06       | 0.03      | 0.04 | 0.03      | 0.04      | 0.06       | 0.03      | 0.04 | 0.04      | 0.04      |
|        | 平均の差 | (単胎<br>-双胎) | **<br>3.1  | **<br>1.8 | 0.1  | **<br>1.2 | *<br>1.4  | **<br>3.2  | **<br>1.6 | 1.1  | **<br>1.2 | 1.2       |
|        |      | (双胎/<br>単胎) | 0.94       | 0.97      | 1.00 | 0.99      | 0.99      | 0.94       | 0.97      | 0.99 | 0.99      | 0.99      |
| 胸<br>囲 | 変動係数 | 単胎          | 0.06       | 0.05      | 0.04 | 0.04      | 0.07      | 0.06       | 0.05      | 0.04 | 0.04      | 0.07      |
|        |      | 双胎          | 0.07       | 0.05      | 0.03 | 0.02      | 0.04      | 0.08       | 0.04      | 0.04 | 0.06      | 0.04      |
|        | 平均の差 | (双胎<br>-単胎) | **<br>2.7  | **<br>0.9 | 0.0  | **<br>0.7 | **<br>1.7 | **<br>2.5  | **<br>1.0 | 0.5  | 0.1       | 0.8       |
|        |      | (双胎/<br>単胎) | 0.92       | 0.98      | 1.00 | 0.99      | 0.97      | 0.92       | 0.98      | 0.99 | 1.00      | 0.99      |
| 頭<br>囲 | 変動係数 | 単胎          | 0.05       | 0.03      | 0.03 | 0.03      | /         | 0.05       | 0.03      | 0.03 | 0.03      | /         |
|        |      | 双胎          | 0.03       | 0.02      | 0.03 | 0.03      | /         | 0.10       | 0.03      | 0.03 | 0.03      | /         |
|        | 平均の差 | (単胎<br>-双胎) | **<br>1.1  | **<br>0.8 | 0.0  | **<br>0.5 | /         | 0.4        | 0.4       | 0.4  | 0.0       | /         |
|        |      | (双胎/<br>単胎) | 0.97       | 0.09      | 1.00 | 0.99      | /         | 0.99       | 0.99      | 0.99 | 1.00      | /         |

注： 変動係数は標準偏差／平均で与えられる。

\*は平均の差の検定で、 $p < 0.05$ ，同じく\*\*は $p < 0.01$

## B-6 精神及び運動の発達状況

川崎市衛生局

青 山 三 男

神奈川県衛生部保健予防課

鈴 木 忠 義

本研究において、双胎児の発達の遅れが随所で明確となった。①首すわり（男： $p < 0.001$ ，女： $p < 0.05$ ），②ひとり座り（男： $p < 0.01$ ，女： $p < 0.001$ ）では、男女ともに有意に遅れを認め、③ひとり歩き（ $p < 0.001$ ），④排尿（ $p <$

$0.001$ ），⑤意味のある言葉（ $p < 0.001$ ）については、男児に有意の遅れ、女児にもその傾向を認めた。⑥離乳完了（ $p < 0.05$ ）に関しては、女児に有意の遅れを認めたが、男児にはその傾向は認められなかった。⑦生歯時期については、単胎

群との間に差は認められなかった。

1歳時の発達状況を単胎群と比較すると、④ひとり立ち ( $p < 0.001$ )、⑨高いところにあがる ( $p < 0.001$ )、⑩イヤイヤバイバイ ( $p < 0.001$ )、⑪動作のまね ( $p < 0.05$ )、⑫自分でさじを持つ ( $p < 0.02$ )、以上の項目にて有意に遅れが認められた。⑬おすわり、⑭両手でおもちゃを持つ、⑮意味のある言葉、⑯身近な人の区別、⑰人のたべものをほしがる、以上の項目については、この時点では既に両群ともに大半が完了しているため、有意差は得られなかった。

1歳時の身体状況については、⑱おなかの大きさが大きい傾向 ( $p < 0.01$ )、⑲手足の形や動きが変な傾向 ( $p < 0.05$ )、⑳あざができない傾向 ( $p < 0.05$ ) が統計学的に認められたが、㉑おとなしさ、㉒ひきつけ、㉓息づかい、㉔嘔吐、㉕便秘、㉖目の異常、㉗良く聞こえるか、㉘鼻出血では、両群間に差は認められなかった。

3歳時の発達状況については、㉙名前がいえる (男:  $p < 0.001$ 、女:  $p < 0.05$ )、㉚自由に話ができる (男:  $p < 0.001$ 、女:  $p < 0.001$ )、㉛続けて遊ぶ (男:  $p < 0.05$ 、女:  $p < 0.001$ ) の三項が、両性とも有意に遅れを示した。㉜ままごと ( $P < 0.01$ )、㉝興味を持つ ( $p < 0.05$ ) では男児にのみ、㉞三輪車 ( $p < 0.001$ ) では女児にのみ、有意の遅れを示し、性差が認められた。㉟階段、㊱食事、㊲偏食、㊳衣類着脱、㊴絵については、両群間に差は認められなかった。

3歳児の身体状況では、男児のみに有意に認められる傾向として、㊵良く聞こえない ( $p < 0.001$ )、㊶いびきをかかない ( $p < 0.02$ ) の二項、女児のみに有意に認められる傾向として、㊷びっこをひく ( $p < 0.001$ )、㊸青あざができやすい ( $p < 0.05$ )、㊹鼻汁がでる ( $p < 0.001$ ) の三項に統計的差をみたが、両性共通に明らかにみられる傾向はなかった。㊺ひきつけ、㊻目の異常、㊼鼻出血では、両群間に差は認められなかった。

4歳時の状況では、㊽話ができない ( $p < 0.05$ )、㊾赤ちゃん言葉 ( $p < 0.05$ )、㊿発音がはっきりしない ( $p < 0.05$ )、㉑話さなくなってきた ( $p < 0.01$ )、㉒人みしり ( $p < 0.01$ )、㉓外で話さない ( $p < 0.001$ ) の6項で有意差をみた。㉔夜なき、㉕ねぼけ、㉖性器いじり、㉗どもる、㉘変

ったものを食べる、㉙夜尿、㉚いびき、㉛あざができやすい、㉜吐く、㉝熱がでる、㉞おしっこがちかい、㉟食べたがらない、㊱目をパチパチする、㊲顔をしかめる、㊳咳ばらいうる、㊴首をふる、の各項では、両群間に差は認められなかった。

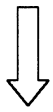
5歳時の状況では、男児のみについて有意に㊵じゃんけん勝負ができる ( $p < 0.05$ ) 傾向がみられたが、女児においてはむしろ逆の傾向がみられた。他の調査項目、㊶両足とび、㊷自分の歳がいえる、㊸友達と遊ぶ、㊹ひとりで便所に行く、㊺良く話ができる、㊻おねしょの有無と回数、㊼目をパチパチする、㊽顔をしかめる、㊾咳ばらいうる、㊿首をふる、の各項では、この時点では両群間に差は認められなかった。

以上、双胎の精神及び運動の発達状況について統計的有意の検討を行ったが、運動発達については、低体重出生児との比較検討が次の課題であろうと考える。精神発達では、言語面の遅れが特徴的であったが、外界に対して閉鎖的な傾向がうかがわれた。単胎群に比して、多少の性差も認められ、興味深い事項が多かった。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



本研究において, 双胎児の発達の遅れが随所で明確となった。首すわり(男:p 0.001, 女 p<0.05), ひとり座り(男:p<0.01, 女 p<0,001)では, 男女ともに有意に遅れを認め, ひとり歩き(p<0.001), 排尿(p 0.001), 意味のある言葉(p<0.001)については, 男児に有意の遅れ, 女児にもその傾向を認めた。離乳完了(p 0.05)に関しては, 女児に有意の遅れを認めたが, 男児にはその傾向は認められなかった。生歯時期については, 単胎群との間に差は認められなかった。